

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向
令和元年度 1 月

○ 概要

- (1) 令和 2 年 1 月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は 6,228 億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）▲0.4%）で、処方箋 1 枚当たり調剤医療費は 9,212 円（伸び率+5.4%）であった。（→P.1~2）
調剤医療費の内訳は、技術料が 1,605 億円（伸び率▲1.8%）薬剤料が 4,611 億円（伸び率+0.1%）、薬剤料のうち、後発医薬品が 857 億円（伸び率▲1.6%）であった。（→P.4）
- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋 1 枚当たり薬剤料 5,470 円（伸び率+5.3%）を、処方箋 1 枚当たり薬剤種類数、投薬日数、1 種類数 1 日当たり薬剤料の 3 要素に分解すると、各々 2.82 種類（伸び率▲0.4%）、24.6 日（伸び率+8.3%）、79 円（伸び率▲2.3%）であった。（→P.8,9）
- (3) 内服薬の薬剤料 3,698 億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）▲17 億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは 21 循環器官用薬の 649 億円（伸び幅▲15 億円）で、伸び幅が最も高かったのは 42 腫瘍用薬の+43 億円（総額 359 億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	3,698 億円 (▲17 億円)	21 循環器官用薬 (649 億円)	11 中枢神経系用薬 (638 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(606 億円)
0 歳以上 5 歳未満	23.9 億円 (▲5.9 億円)	44 アレルギー用薬 (8.9 億円)	61 抗生物質製剤 (3.7 億円)	22 呼吸器官用薬 (3.4 億円)
5 歳以上 15 歳未満	78.0 億円 (▲18.8 億円)	44 アレルギー用薬 (25.5 億円)	11 中枢神経系用薬 (20.7 億円)	62 化学療法剤 (6.6 億円)
15 歳以上 65 歳未満	1,299 億円 (▲40 億円)	11 中枢神経系用薬 (276 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(228 億円)	21 循環器官用薬 (195 億円)
65 歳以上 75 歳未満	875 億円 (+6 億円)	21 循環器官用薬 (181 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(174 億円)	42 腫瘍用薬 (115 億円)
75 歳以上	1,422 億円 (+41 億円)	21 循環器官用薬 (270 億円)	11 中枢神経系用薬 (236 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(198 億円)

- (4) 処方箋 1 枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では 9,212 円（伸び率 +5.4%）で、最も高かったのは北海道（11,047 円（伸び率+4.6%））、最も低かったのは佐賀県（7,756 円（伸び率+3.5%））であった。
また、伸び率が最も高かったのは茨城県（伸び率+8.2%）、最も低かったのは山梨県（伸び率+2.5%）であった。（→P.31~32）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^{注)}	80.2 %	+2.7 %
薬剤料ベース	18.6 %	▲0.3 %
後発品調剤率	76.5 %	+0.9 %
（参考）数量ベース（旧指標）	55.5 %	+1.5 %

注）〔後発医薬品の数量〕 / 〔（後発医薬品のある先発医薬品の数量） + 〔後発医薬品の数量〕〕 で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	▲1.6 %	+2.1 % (70 歳以上 75 歳未満)	▲9.3 % (65 歳以上 70 歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	18.6 %	22.6 % (0 歳以上 5 歳未満)	12.2 % (10 歳以上 15 歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	80.2 %	82.6 % (60 歳以上 65 歳未満)	74.1 % (10 歳以上 15 歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.46~50）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	744 億円 (▲25 億円)	21 循環器官用薬 (226 億円)	23 消化器官用薬 (101 億円)	11 中枢神経系用薬 (96 億円)
0 歳以上 5 歳未満	6.9 億円 (▲1.0 億円)	44 アレルギー用薬 (2.5 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.0 億円)	61 抗生物質製剤 (1.1 億円)
5 歳以上 15 歳未満	16.1 億円 (▲1.1 億円)	44 アレルギー用薬 (7.6 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.1 億円)	61 抗生物質製剤 (2.1 億円)
15 歳以上 65 歳未満	260 億円 (▲9 億円)	21 循環器官用薬 (63 億円)	11 中枢神経系用薬 (47 億円)	44 アレルギー用薬 (31 億円)
65 歳以上 75 歳未満	178 億円 (▲9 億円)	21 循環器官用薬 (69 億円)	23 消化器官用薬 (23 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(19 億円)
75 歳以上	284 億円 (▲5 億円)	21 循環器官用薬 (94 億円)	23 消化器官用薬 (48 億円)	11 中枢神経系用薬 (33 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.55~60）

	全国	最高	最低
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,268 円	1,663 円(北海道)	1,054 円(佐賀県)
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+4.1%	+6.8 % (茨城県)	▲0.3 % (岩手県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	80.2 %	88.6 % (沖縄県)	73.8 % (徳島県)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	18.6 %	22.0 % (鹿児島県)	16.3 % (徳島県)
後発医薬品調剤率	76.5 %	83.6 % (沖縄県)	71.6 % (東京都)
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	55.5 %	64.1 % (沖縄県)	51.4 % (徳島県)

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和2年1月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。